

大規模災害からの復興について

□調査期間 令和5年5月22日～6月2日

□対象者数 1074 人(令和5年5月22日現在)

□回答者数 791 人

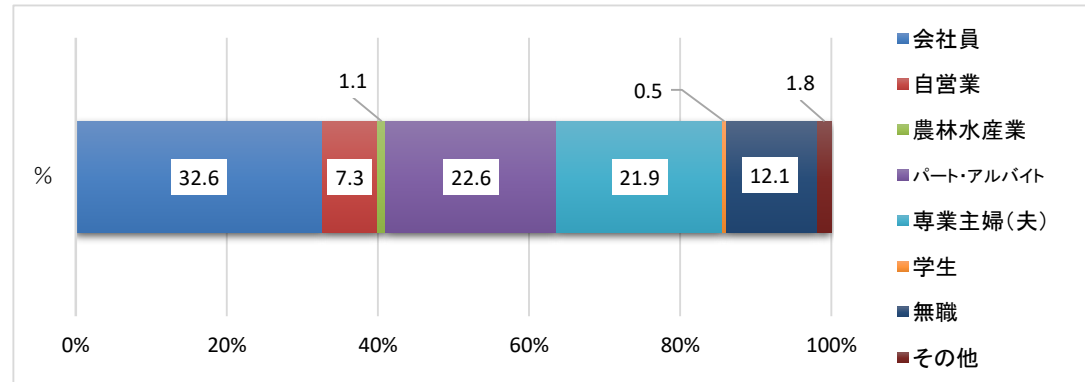
□回答率 73.6 %

(図および表中の比率は、少数点第2位を四捨五入して表示しています。したがって、内訳を合計しても100%に合致しない場合があります。)

【Q1】まずは、モニター情報を教えてください。

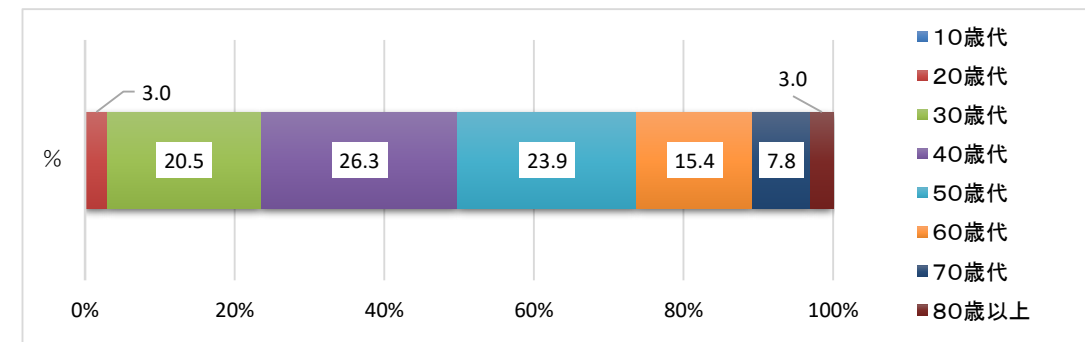
【職業】

内訳	人数	%
会社員	258	32.6
自営業	58	7.3
農林水産業	9	1.1
パート・アルバイト	179	22.6
専業主婦(夫)	173	21.9
学生	4	0.5
無職	96	12.1
その他	14	1.8
合計	791	99.9



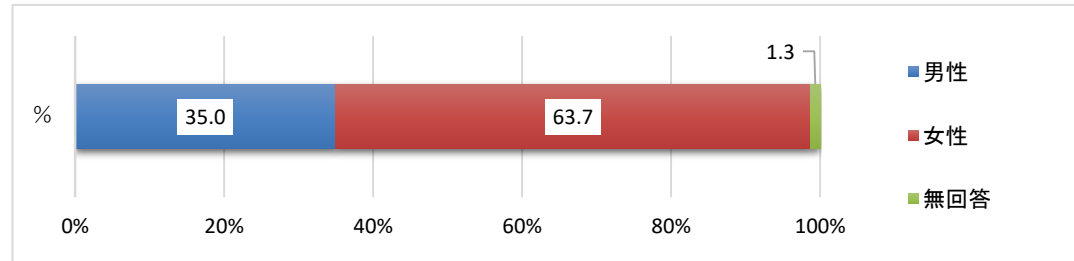
【年齢】

内訳	人数	%
10歳代	0	0.0
20歳代	24	3.0
30歳代	162	20.5
40歳代	208	26.3
50歳代	189	23.9
60歳代	122	15.4
70歳代	62	7.8
80歳以上	24	3.0
合計	791	99.9



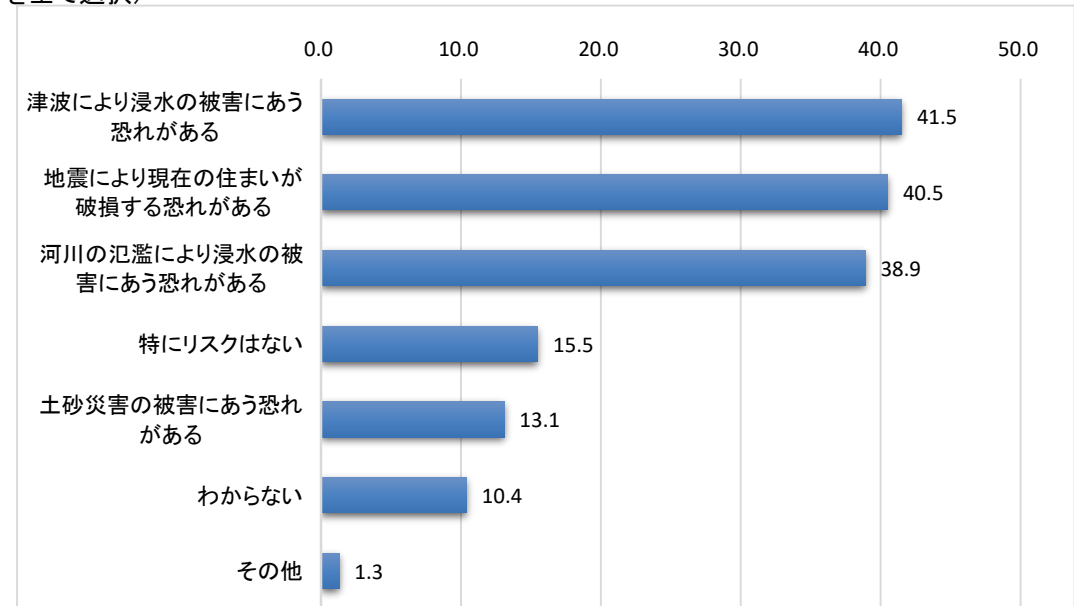
【性別】

内訳	人数	%
男性	277	35.0
女性	504	63.7
無回答	10	1.3
合計	791	100.0



【Q2】現在のお住まいは災害リスクがありますか？(あてはまるものを全て選択)

内訳	人数	%
津波により浸水の被害にあう恐れがある	328	41.5
地震により現在の住まいが破損する恐れがある	320	40.5
河川の氾濫により浸水の被害にあう恐れがある	308	38.9
特にリスクはない	123	15.5
土砂災害の被害にあう恐れがある	104	13.1
わからない	82	10.4
その他	10	1.3



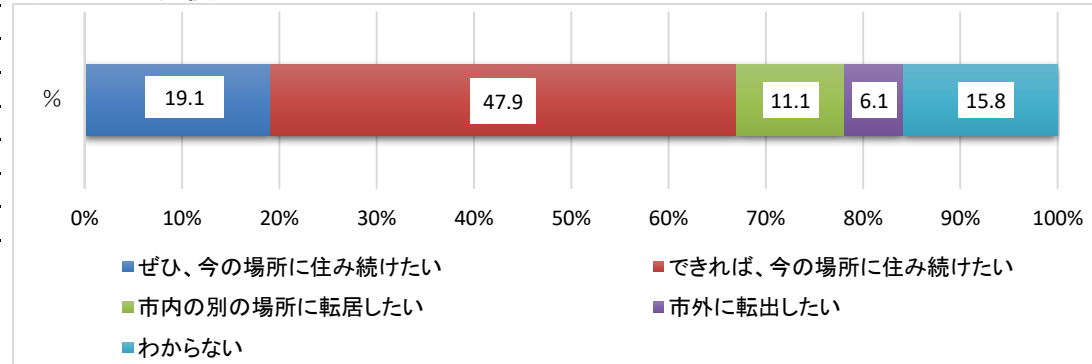
【Q2-1】その他(対象10人)

- 土地が液状化するとハザードマップに載っている。
- 山を切り開いて開発された住宅地なので、山火事が心配です。
- 地震時の液状化が不安です。
- 風水害による洪水浸水の恐れがある。
- 雨水路が整備不十分で毎年6月～8月に道路などが冠水しています。また、多雨量の時は土嚢をして床下浸水を防いでいます。
- 河川ではないが大雨による浸水のおそれあり。
- 擁壁が倒壊する可能性があるように思う。
- 自宅前道路の浸水

- 洪水
- 交通・通信・水道・電力などの基本的なインフラの被害。

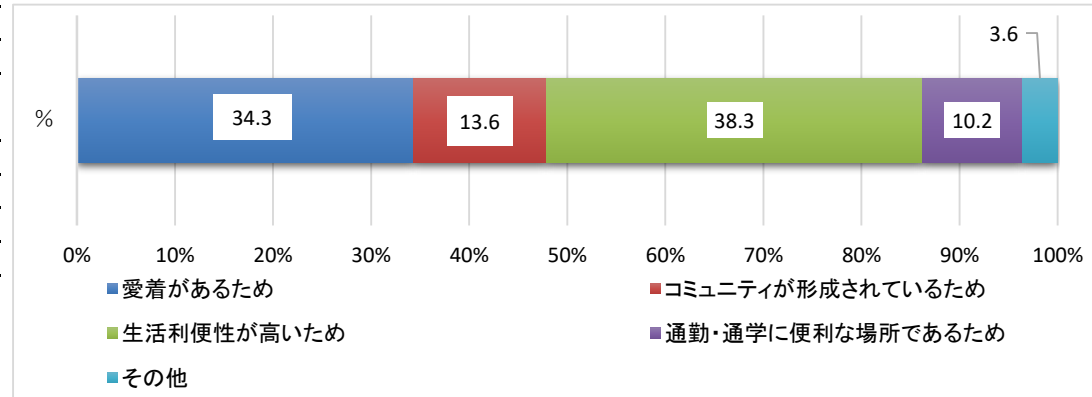
【Q3】大規模災害発生以降も現在の場所で住み続けたいですか？（ひとつだけ選択）

内訳	人数	%
ぜひ、今の場所に住み続けたい	151	19.1
できれば、今の場所に住み続けたい	379	47.9
市内の別の場所に転居したい	88	11.1
市外に転出したい	48	6.1
わからない	125	15.8
合計	791	100



【Q4】Q3で「ぜひ、今の場所に住み続けたい」「できれば、今の場所に住み続けたい」と回答された方にお聞きます。今の場所に住み続けたい理由として最も当てはまるものは何ですか？（ひとつだけ選択）（対象者530人）

内訳	人数	%
愛着があるため	182	34.3
コミュニティ(地域の人間関係)が形成されているため	72	13.6
生活利便性が高いため	203	38.3
通勤・通学に便利な場所であるため	54	10.2
その他	19	3.6
合計	530	100



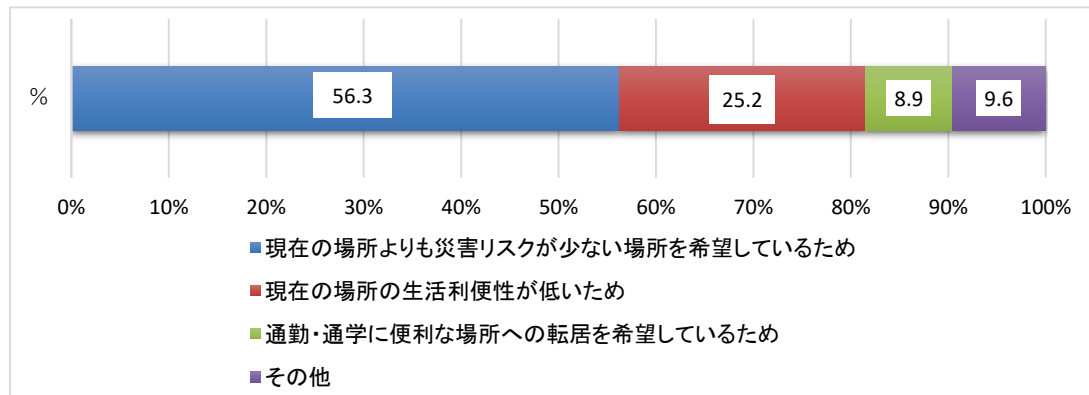
【Q4-1】その他(対象19人)

- 引っ越すお金がない
- 自然が近いから。
- 環境が良い。
- 長年住み慣れた地域で、環境的・地域性状況が分かり、新天地で過ごすには、年齢的にも”きつい”と思われる。
- 昔からの夢、孫たちの里「20年前に移住」
- 移転コストが負担

- 現在より安全とわかる場所に検討がついていない。
- ご先祖さんから引き続いて来た家、田畑なので！
- 持ち家がある。
- 今更、移住地を変える必要性無し。大半の住人はそう思ってる。
- 安全なため。
- 新築を建てたばかりだから。
- 被害がさほど大きくなさそうだから。またどこに引っ越しても市内ならさほどどこも同じだと思うため。
- 家があるから。
- 代々ここに住んでいるから。
- 持ち家なので、移りづらい。
- 災害リスクが少ないから。
- せっかくローンを組んで立てた家だから。
- めんどくさい。

【Q5】Q3で「市内の別の場所に転居したい」「市外に転出したい」と回答された方にお聞きます。別の場所又は市外に転出したい理由として最も当てはまるものは何ですか？（ひとつだけ選択）（対象者136人）

内訳	人数	%
現在の場所よりも災害リスクが少ない場所を希望しているため	76	56.3
現在の場所の生活利便性が低いため	34	25.2
通勤・通学に便利な場所への転居を希望しているため	12	8.9
その他	13	9.6
合計	135	100



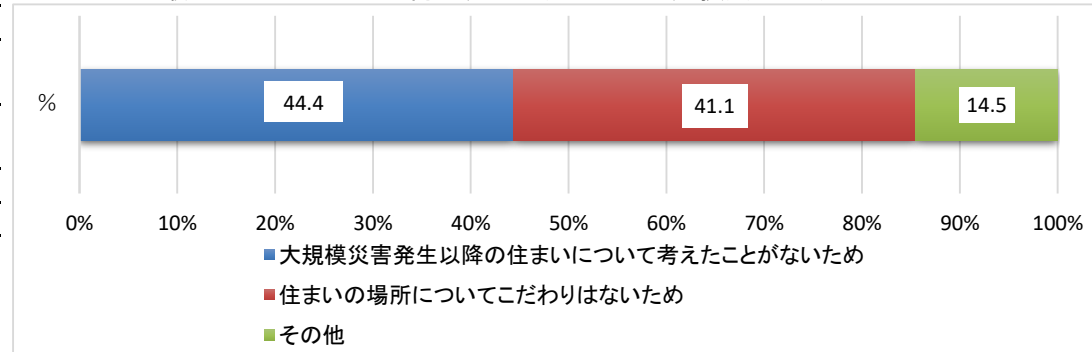
【Q5-1】その他(対象13人)

- 賃貸なので住めなくなれば住める場所に変わるだけ。
- 賃貸なので特にこだわりがありません。
- 福祉が充実していない。
- 家族や友人と近い所に行ければと思ったので。
- 現住まいが老朽化して来てるから。
- 近隣に転居予定のため。転居先は災害リスク同じくらいの場所。
- 子供が生活している地域の近くに引っ越したい。
- 他県出身なので、そこにいつか移るかもしれません。

- 日当たりが悪いから。
- 生活に便利で広いところに住みたい。
- 静かなのんびり出来る所
- 現在住宅建設中のため市内の別の場所に転居予定。

【Q6】Q3で「わからない」と回答された方にお聞きします。わからない理由として最も当てはまるものは何ですか？（ひとつだけ選択）（125人）

内訳	人数	%
大規模災害発生以降の住まいについて考えたことがないため	55	44.4
住まいの場所についてこだわりはないため	51	41.1
その他	18	14.5
合計	124	100



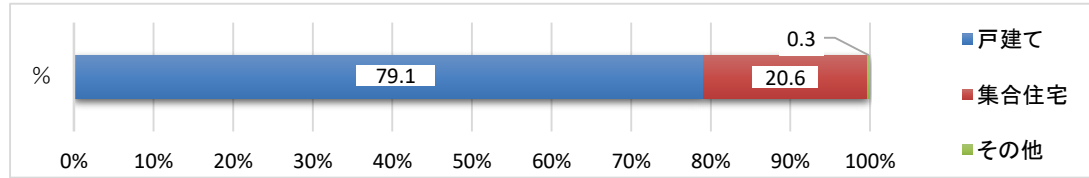
【Q6-1】その他(対象18人)

- 災害が来るのはわかっているのに、災害後より、今移転したいというのが本音。お金と仕事の心配をしなくていいなら被災前に安全なところに引っ越したいと思う。災害を体験して生き残ることができたら現在の場所で住むのもありだと思うが、実際に住める状態に戻るのかどうか、それがいつになるのか、目安がないので今は結論を出せない。そのとき自分がどのくらい歳を取っているのかでも判断は変わってくる。阪神大震災のあと復興住宅ができたが生活するのに不便な場所だったり孤独死が増えたりと、行政は問題点をすでに把握していると思う。もし移転してほしいと言われても、どこに行くことになるのか移転先も何もわからないので、いま決めることはできない。今と同じ場所で住んでいいと言われても、そのときの年齢や貯えや家族構成で自宅を再建するだけの費用が工面できるのかもわからない。
- 土地の崩壊具合による。
- 被害を受けてみないとわからないため。
- お墓が他府県にあるため。
- 津波で浸水する位置の義実家の土地にいずれ移り住もうかとも思っているが、家を建ててすぐに大規模震災来たら嫌なので、地震が来て更地になってから建てようかどうしようか悩んでいる。子供の校区が変わるので、大規模災害が来るのが早すぎたら、今の位置に住み続けるかもしれないし、タイミングが合えば義実家の方に移住するかもしれない。未定で分からない。
- その時の状況によると思うから。
- 被災状況によるため。
- 復興までにどれくらいかかるか分からないので、その時の状況で県外にでることもあります。
- 被害の状況による。
- 出来れば今の所に住みたいが、独り暮らしで、子供が他府県にいるため、被害の程度等事情によってどうなるかわからないから。
- 大規模災害と言ってもどこまでのものかによる。
- どれくらいの規模の被害があるかにもよる。
- 実際経験しないと分からないため。

- 被害の程度による。
- 大規模災害が起こったとしてその種類と状況と継続する期間の長さがわからないし、近隣府県の状況もわからない中で、住み続けられるか移住先が見つかるか、判断できる要素が少ないため。
- 安全な場所に移りたいが何処が良いか決めかねる。
- 災害に関係なく移住を検討している。
- 仕事を続けられる状態なら残る。

【Q7】現在のお住まいの形態は何ですか？（ひとつだけ選択）

内訳	人数	%
戸建て	626	79.1
集合住宅	163	20.6
その他	2	0.3
合計	791	100

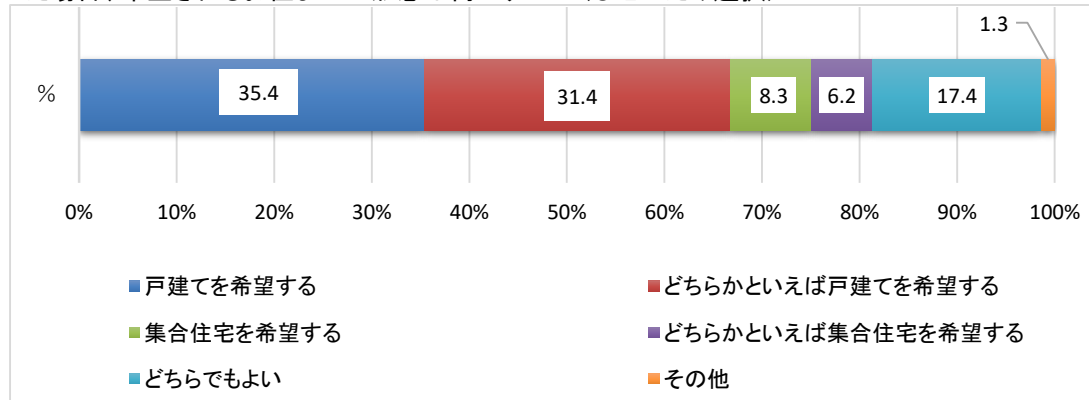


【Q7-1】その他(対象2人)

- 戸建て住宅の2階部分を間借り
- アパート

【Q8】もし、大規模災害発生により現在のお住まいで暮らせなくなった場合、希望されるお住まいの形態は何ですか？（ひとつだけ選択）

内訳	人数	%
戸建てを希望する	280	35.4
どちらかといえば戸建てを希望する	248	31.4
集合住宅を希望する	66	8.3
どちらかといえば集合住宅を希望する	49	6.2
どちらでもよい	138	17.4
その他	10	1.3
合計	791	100

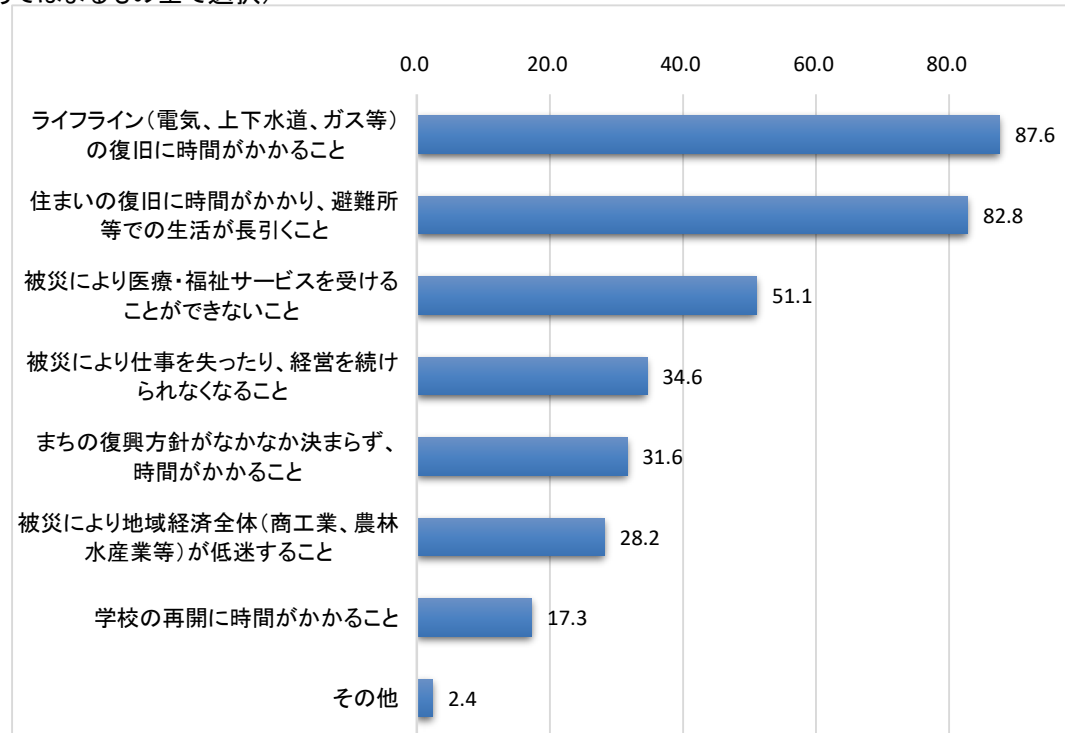


【Q8-1】その他(対象10人)

- わからない。
- 所持金による。
- 老人施設
- 娘の家の近くに住む。
- 今は考えられない。
- 新築で建てたばかりで考えたくない。
- 希望したい訳ではなく、戸建てにしたいが再度ローンを組む余裕もない為、止むを得ず集合住宅を選択する事になると思う。
- 総合的に考えたい。
- 分からない。
- ペット可能で暮らせるなら(猫)

【Q9】大規模災害からの復興時に懸念していることは何ですか？(あてはまるもの全て選択)

内訳	人数	%
ライフライン(電気、上下水道、ガス等)の復旧に時間がかかること	693	87.6
住まいの復旧に時間がかかり、避難所等での生活が長引くこと	655	82.8
被災により医療・福祉サービスを受けることができないこと	404	51.1
被災により仕事を失ったり、経営を続けられなくなること	274	34.6
まちの復興方針がなかなか決まらず、時間がかかること	250	31.6
被災により地域経済全体(商工業、農林水産業等)が低迷すること	223	28.2
学校の再開に時間がかかること	137	17.3
その他	19	2.4

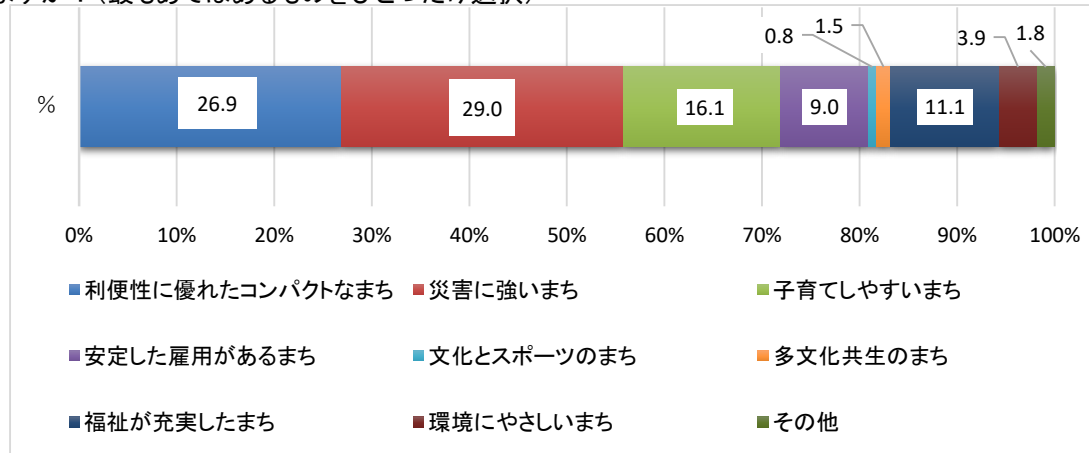


【Q9-1】その他(対象19人)

- 復興時に懸念していることは「まちの復興方針が決まらず時間がかかること」でなく、公を重要視するあまり個人の要望が見逃されることや聞いてもらえないことである。もうひとつ言えば、復興計画を民間企業に高い価格でつくってもらうのではなく、市役所職員を削減せずに増やして、あわせて非正規職員の希望者を正規雇用化して、市民を良く知っている職員に市民のニーズに合った復興計画を立ててもらいたい。東日本大震災のとき、各首長は国の権限を強めるより地方自治体の裁量権を大きくしてほしいと要望していた。国より地方自治体の方が住民の要望をよく知っていて、地域や住民に配慮した政策を行えるからという理由だったと覚えている。大災害のときは国に緊急事態権を持たせて国の権力を強めるのは良くない。地方のことは地方から。災害時は地方自治体が自由に使える交付金を出すことが大事だと政府に意見書を出してほしい。紐づけされた交付金は使い勝手が悪い。原発事故のときの原子力避難防災計画を地方自治体に丸投げする国なのだから、地震津波などの大災害のときも同じように地方自治体に任せてほしいと言っていると思う。(はじめの心配事は被災直後の生活。)
- 持病の薬がのめなくなること。
- 経済的な不安。
- 物品不足になった場合、盗難など起きやすく、治安が悪くなりそう。言葉がまだ喋れない小さい子供がいるので、避難所だと迷子にならないよう目が離せない。
- 家の再建・修理などで多額の費用がかかること。
- ペットがいるため、そもそも避難所に行けるのか不安
- 高齢者ばかりの町で人口増加が見込めず、インフラ、和歌山県自体がなくなってもおかしくないこと。生活できなくなる。
- 子どもの心理的ダメージ。
- 治安が悪くなること。
- 家族を亡くされた方への生活補償
- 住宅ローンの二重ローンの問題
- 地震で水道管が破裂した場合、水道の普及に何ヶ月かかるか発表すべき。電気の復旧は？
- 不安につけ込み根拠のない噂や悪質商法が横行すること。
- 犯罪に巻き込まれないか不安。
- 生活レベルが下がること。
- 復興が田舎になるほど遅く、後回しにされる可能性がある。
- 心理的なケアやコミュニティの再構築が困難な場面が想定される。
- 治安の悪化
- 動物との生活

【Q10】復興後、どのようなことに主題を置いたまちづくりを希望しますか？（最もあてはまるものをひとつだけ選択）

内訳	人数	%
利便性に優れたコンパクトなまち	213	26.9
災害に強いまち	229	29.0
子育てしやすいまち	127	16.1
安定した雇用があるまち	71	9.0
文化とスポーツのまち	6	0.8
多文化共生のまち	12	1.5
福祉が充実したまち	88	11.1
環境にやさしいまち	31	3.9
その他	14	1.8
合計	791	100.1



【Q11】大規模災害からの復興に関するご意見などありましたら、ご記入ください。（任意）

- 想定外を減らしてほしい。被災した市民はどこで生活するのか？避難生活はいつまで続くのか？海外では世帯ごとにプライバシーに配慮したスペースがあるのがスタンダードだが、日本は先進国とは思えないくらい、体育館で雑魚寝が主流。あり得ない。子どものいる世帯や具合の悪い高齢者、障害者への配慮はできるか？被災が著しい地区の住民の被災直後の生活は、個人の力で何とかできるものではない。各地区の被災者は何人か、各施設に何人収容できるか、トイレの数の確保、被災直後の食料や日用品は何日分か、など分かっていることは和歌山市HPで開示してほしい。大災害では支援はすぐに来ないと思う。最悪の想定での避難生活の見通しを知りたい。
- 復興の意欲を高める方策を事前に策定しておくこと。
- 今も紀和駅で災害用の設備がありますが、心無い人たちに壊されたりして、これからもし災害で使用しないといけない時、使えるかどうかと、もう少し保管の仕方がないのかと思います。
- 避難所の安全性と病気に強く関心があります。
- お知らせ系が不安。発信方法をたくさんしてほしい。
- 復興よりも、避難場所の拡充をすべき。
- 下水の整備を整えて欲しい。
- 住んでる地域はぎりぎり市内になってますが、田舎すぎなので何かあれば対応が最後なのかなという不安はあります。小さい子供も三人いてるので困るかなと思っています。
- 素早いライフライン、高齢者や乳児、妊婦、病気をお持ちの方が日常に過ごせる環境を早く整えるシステムの構築
- 高齢で復旧する手段に迷っている。その他金銭的な面。
- 地震の場合、保険をかけていても一部しか出ないなど、経済的に心配です。
- 大規模災害はきてほしくないが、起こったときは、合理的なまちづくりのチャンスだと思う。今回のように市民の希望を聞いておくことはいいことだと思う。
- 出来るだけ早く元の生活ができるようにしてほしい。

- 災害がある前提で今出来る事を本気で実施するべき。
- コンパクトシティ構想を市民に提案し、住み良い安全安心なまちづくりに時間をかけて取り組まれてはと考えます。
- どれほどの被害が発生するのか想像がつかない状態ではありますが、まずはライフラインや常に医療や福祉サービスが必要な方への支援を最優先すべきであると考えます。地域が一体となって復興を進める事ができるように行政には強いリーダーシップを求めたいです。
- まず住まいの確保は早急に進めて欲しい。古民家の利用なども。
- 復興の予定と進捗状況をきちんと知らせてほしい。復興途中の予定変更はその都度示してもらえればいいです。自分の町の未来への展望を常に持ってほしいです。
- いつ津波・地震等が発生するか分からない状況です。現在、発生先の復興支援を見る限り、国策等として十分取り組んでいるのかが疑問に思っています(経過と共に忘れられている等。とりわけ、一定程度の災害装備品は準備していますが、当面の間、発生しない事を願っています。【余談】素朴な疑問として、北朝鮮のミサイル等が、日本海等に落下しています。余波として、地域に地殻変動を起こしているのかも想ったりもしています。
- インフラだけでなく、メンタルケアも数十年かけて支援を行った方が良く考えます。
- 自分の身の上に関わったことがないからよくわからないし災害が起こらないことが大事だと思います。
- 来る、と分かっているのだから、もっと備えないと！とは思いますが、つつい防災グッズの中身が賞味期限切れになってしまう。
- 復興がスムーズに行けるようにするには、どのように行政が考えているのか、マニュアルなどがあるのか、私達は日頃からどのように過ごして行かなくてはならないのか、たくさん問題点があり、普段からの備蓄など備えている家庭はあまりないと思う。特に高齢者の方や障害を持っている方は、家族としてどのようにすればいいのか、分からない。政治は少子化、子育て支援に力を入れているが、お金を使わず復興するときに使えるように貯金しておくべきだと思う。
- 狭い道路が多いため、災害が起きた時の危険性や復興のための道路の確保の遅れでライフラインの復旧に時間がかかりそう。
- 生活に必要な食料品等の備蓄
- 出来るだけ海辺、土砂災害、浸水被害から遠い場所に民家や医療機関などを設置。できればまた被害近くに強い建物、防災用具など作れたらいいのになと思う。ヘリが入れる場所。
- 直ちにライフラインを復活させることが先決だ。出来るだけ三日以内だ。それから避難所からの離脱だ。集合住宅は利便性がないしプライバシーもほぼない。住宅支援制度を充実させるべきだ。補助金も出して欲しいが微々たる金額ではダメだ。全体の三割以上は欲しい。
- 素早いインフラの整備をお願いします。
- 復興の前から災害に強い、子育てしやすい、安定した雇用のある、文化を大切にしたい、多文化共生の、福祉が充実した、環境に優しいまちづくりをしてほしい。
- 数年前の西日本豪雨のとき、停電が2日ほど続いて困ったので、電気のインフラが心配です。まだ不十分なところがあれば整備を進めていただきたいです。
- 高齢者だけではなく、妊婦や赤ちゃんがいる家庭も支援を優先して欲しい。
- 避難所生活が長期化しないよう、仮設住宅や災害復興住宅の早期整備に取り組んでほしい。また医療福祉サービスが切れ目なく確保できるよう近隣自治体との協力を進めてほしい。
- 身元が分からなかったり家族とはぐれたりした場合の連絡情報の開設所が必要だと思います。
- 大規模になるかどうかは分からないにしても、想定した上で何らかの具体的なまちづくり計画を策定しておいてもらいたい。
- 和歌山市の水管橋崩落でも感じたことですが、『災害というもの』がいつどこで起こるか分からないものだという危機意識の欠如が多いのではないかと感じています。花山の断水問題が起こった際に、他にも同じことが起こりうるかもしれないことを理解していれば日頃からの備えについては準備出来たはず。しかし周りの状況など把握せず買い占めなどが起こったりと当時は散々なものだったと記憶しています。不便は3日ぐらいまでは我慢出来ますが、そこから先は不満をぶつける先を探します。復興については、縦割りだけではなく関係各所の連携をしっかりとれるように準備想定する必要があると思います。

- 和歌山は南海トラフの可能性が高い地域だし、今は地震が多発していてとても不安です。やはり阪神や東北の地震の災害経験を教えをこい学んで、県政、市政を迅速に対応してもらい、県民、市民の命、財産を守って欲しい。又高齢者や障害者の求助の仕方など密に取り合っ欲しいです。
- 避難所となる所に太陽光を設置したら環境にも配慮し、かつ素早くライフラインを確保できるのではと思います(学校の屋上とか)
- 災害からの復興には、日頃から地域の事情をよく知っている地元建設業者が貢献してきたところですが、業者数も減少し協力会社も高齢化が進んでいるなかで、大規模災害が発生したら速やかに機動的な体制がとれるでしょうか。公共事業の金額をあまりに重視し地元外へ間口も広げ、価格競争を促進してきたため土木事業者は、重機はレンタルになり、社員も余裕をもって雇用しなくなっているのが実態ではないでしょうか。地域の災害復興インフラ体制作りには、時間がかかるとは思いますが一気に取り組む必要が有ると考えます。
- 最近子育て世代や非課税の人ばかりに色々な政策や援助がありますが、災害の時はみんな同じ条件で支援してほしい。
- とりまとめる機関などが予め設定されていないと、いざという時、混乱を招くと思います。
- 日本中で地震や水害など被害がおきているなか、和歌山は恵まれているなど何時も感じております。しかし、そのうち、今おきるかもしれない災害にどのようにすればよいのか、想像が付きません。
- まずは命というところで復興予算はつく。ただその予算の配分などについては県民の声が集まりにくく、被害の大きな箇所への集中となるのは仕方ないとしても、県全体のインフラや今後続発の可能性のある災害地域の研究やそれに基づいた街のあり方などを示せる体制、トップダウンではなくボトムアップ型の柔軟な体制、一定の政治だけが介入するような偏った施策のない復興をかंगाえていただきたい。
- 災害時体育館や公民館を避難場所にするのではなく空き家やホテルなどを利用するのはどうですか。
- ①正確な情報の迅速な伝達②災害発生時の徒歩避難困難者に対する緊急時「車による避難」行動の策定(条例・法定)
- 裕福でない人達が困らないようにして欲しい。
- 大規模災害も復興もなってみないとわからないことだらけだと思うので、その中で何ができるかを考えていきたいです。和歌山が復興についてどういう想定をしているかも知りたいくなりました。
- どれくらいの災害でどの地域に大きな被害があるか分かりませんが、もし色々な事を始めから(表現変ですみません)するのであれば、朝の渋滞が緩和され買い物や車がなくても移動がしやすい街になって欲しい。仕事に困ることのないよう、そして自分も高齢になるであろうから福祉のしっかりした和歌山に復興してもらえたらと思います。
- 災害の危険度が高い地域での新規住宅建設をしない。災害様用シェルターの準備。
- 和歌山は特に紀ノ川で分断されてしまうと陸の孤島になるので、そこを1番に考えるべきだと思います。
- 民家の少ない農村地帯なので電気やガスや水道の復旧を後回しにされそうで心配。
- 地域の人が一丸となって復興に力を入れること。
- 被災した方には厳しい選択になるかもしれませんが、災害が起きやすい地域から転居して、利便性があり災害に強いコンパクトな地域を作ってほしい。北海道では、一人二人の住民のために除雪などで大きな費用がかかる状況は変えていかないと感じていたので。
- 家庭内での災害対応準備は大切なので、先導して公が住民への指導を望む。
- 自然に抗わない街づくりを肝要とする事！自然に抗わなければ自然災害を最小限に抑えた暮らしができます。
- 和歌山は普段からでも陸の孤島扱いです。南海トラフが時間差で発生する予測があると、他の地域からの支援が遅れるんですよね。災害に備えての公的な備蓄が必要だとは思いますが、賞味期限を過ぎると廃棄されるし、難しい問題だと思います。
- 南海トラフは、まぎれもなくここ数年で起こり得るからこそ、恐れず日々生活をしたい。防災を心がけ少しでも最悪の状態を免れたい。地域として。
- 災害から身を守る方法は普段からの心構えや、具体的な模擬訓練です。年に一度でもいいから集団で訓練してほしい。南海地震が来てもベストな避難活動ができるように常日頃から訓練しておくべきです。
- 復興対策のスピードが大切
- リスクを早く見つけて、早め早めの対応をしてほしい。こうしておけば良かったのに！をなるべくなくしてほしい。
- 小雑賀のあたり高いビルも少なく、避難場所が宮前小学校では遠すぎる。避難場所をもっと増やして欲しい。

- 仮設、復興住宅の計画図や復興計画図を出さずにこんな質問をするのは偉そうだし失礼です。ハザードマップがあるならそれに即した復興計画図を策定しかるべきです。作成しないのなら、まず現時点で復興計画図が存在しない理由を提示すべきでは？ 掲示すべきではないのならその理由をきちんと公表すべき。市長も役人もあまりに自分たちの都合で考えすぎ。田辺市のように海拔ではなく地盤面からの浸水深さの表示を一刻も早く市内中に掲げるべき。海拔を掲げて何の意味があるのか。インバウンド来られる外国の人間がそれをどのように活用すれば良いのか今すぐ明確に教えて。
- 一人暮らしの高齢者の方が安心して暮らせる街作り
- 想像もできませんが、そうも言っていない雰囲気になってきました。いざというときの備えは最低限しかしておらず不安です。
- 瓦礫などの処分場所や、インフラの復旧がどのくらいかかるのかが心配です。
- 長年和歌山市に住む人だけでなく、移住者にも復興の街作りの情報収集や意見を聞いてもらえるのか。
- 防災アプリなどの充実をお願いします。
- 一からの復興になった場合、総合的に便利な街並みに。
- 復興予算を早急に確保する必要がある。復旧資材や人材の準備進行状況が伝わって来ない。東南海の際は、近県からの応援が得られない事を頭に入れ、議会で早急に打ち出すべき。
- 現状のまま、復興が出来きるとは考えにくい。いつのころからはわかりませんが、県・市共、地域の活性を忘れています。地元の業者を育てず、大規模な建物を建てています。復興の時には、何の役にも立たないことを忘れている。
- 極力復興住宅は作らずに、既存の空き家、賃貸住宅を活用する事、仮設住宅は居住性が悪すぎる。今ある賃貸住宅6万戸空き室を仮契約で事前に安く確保する事 他都市のマネはやめよう。
- 和歌山は田舎なので、南海トラフ地震が起きたら復興になかなか回ってこなさそうで不安しかありません。
- 高齢者が増加しているが高齢者でも元気な人を活用してほしい。
- 福岡では災害時すぐに避難所に避難しています。和歌山市内も年寄りが、避難しやすい避難所が各所に設けられたら我々、高齢者は助かります。老人は、足腰弱い人多いので近くに避難出来たら助かります。
- 和歌山市は今までの施策として、何も災害対策をしていない。道路拡張や立ち退きに対する即効性のある施策を。
- そもそも空き家や、所有者不明の建物がある場合の対処方法が決まっているのか？
- とにかくライフラインの復旧を早くできるように対策しておいて欲しい。
- 町ごと崩壊した場合は一番には仮設住宅を早く。次に崩壊地域の交通アクセスを復活させて整理を早くするようにする。
- 給水、下水、浄化槽を最優先に整備されたい。
- 大規模災害発生時の対応計画について、今回のアンケートで質問されている項目別に、対応計画の内容を市民に開示説明してほしい。
- 地震や津波が平日昼間に発生した場合、まちなか（県庁や市役所近辺）に勤めたり通学している人が全員避難できるだけのキャパシティがあるのか、また公共交通機関や道路が寸断された場合の帰宅手段が心配。
- 何よりも人が安心して住める環境を整備してほしいです。
- 私の住んでいる地域は工業地区です。住宅やビルが崩れ流れるだけでなく、想像もできないほど巨大な工業建築物が崩れ流されてくると予想されます。ですが、各会社はもし災害が起きた場合どのようなものが倒壊・漂流するのか具体的に教えてほしいと思います。（知らなかった災害被害と知っていた災害被害とでは災害後の心持ちが違います）
- どのような状況でも子どもが不自由なく暮らせれば問題ない。
- 町全体が災害から守られ、また互いに復興支援を互いに成せる体制作りが必要だと思います。
- 津波が一番恐怖だし、和歌山ではどこで起こりうるので、海から離れて高台に町造りをした方が良いのではと思います。
- 行政が日頃から市民の意見をきいて検討してしておく事が大事。
- 大災害後も事業が継続できるように対策をする様に和歌山市の法人に案内なりを出すべきだと思います。東北震災直後はそんな話があったが年月がたち忘れてる。

- 迅速な対応
- 古い空き家（壊れかけている空き家）を更地にしておくことで、大規模災害時その更地が有効に活用できると思います。
- 絶対ないとは言えず、あり得る大規模災害には、ライフラインの復旧が速やかに行えるようにして頂ければ、少し安心です
- 老若男女問わず意見交換ができる方法で実践してほしい。
- 倉敷市が以前洪水になったとき、被害はハザードマップのとおりだった。しかし、復興の課程で被害が大きかったところに再び家屋が建っている。住人の意見は『リスクはあっても土地が安いから』という。被害想定地域に家屋がたつのはリスクであると思う。土地に関する仕組みが必要ではないかと思う。
- 不安を希望にいち早く切り替えられるような行政の対応を期待します。
- 小さい子どもがいるので災害後の生活が心配です。離乳食やオムツなどの備蓄はしておりますが、長期間になると難しいです。また、泣いたり遊んだりする子どもとの避難所での集団生活にも不安があります。
- 誰しものが不便を感じるかもしれないが、その不便を少しでも緩和してくれるようにお願いします。政治だけでなく、私達全員が協力できるネットワークづくりも大切だと思います。
- 復興に地域差が出ないようにしてほしい。前回の停電時、数時間で復旧したところがあったのに、3日近くかかったのは差があり過ぎ。その間の生活困難が不公平すぎると思う。
- 介護施設に通所している家族がいるので、復興よりもその家族と一緒に避難生活できるかどうか不安です。要介護で通常の避難所での生活は難しいと思うので、復興よりも災害時の避難の不安のほうが大きいです。大規模災害と言ってもどの程度の被害があるかわからないので、イメージするのが難しいです。
- 道路の整備
- 弱者にも優しい復興になればと思います。
- 手厚い援助
- 災害が起きた時にどう避難するかなどは考えるが、復興に関しては全く意識していなかった。災害発生時は自分のことで精一杯だと思うので、行政にしっかり舵をとってもらいたい。
- 命、健康、それを優先でお願いします。その後の雇用や社会経済も大切ですが、まずはしっかり命と健康を守る対策を行なって欲しいです。その法整備なり、マニュアル整備なりが完成してから次に取り掛かって欲しいです。そして数年おき、または必要に応じて更新していただけると助かる
- 避難所等でトラブルがおこらないようにする為にはどうしたらいいのでしょうか？
- 税金の使い道が不透明、何年か後に壊す仮設住宅作るより、被災者に直接現金を交付し、近隣空き家に移住など、手厚い支援をして欲しい。
- 和歌山市は大きな津波は来ない。3階以上にいれば大丈夫。
- 対応が遅いので早めに対処してほしい。
- 復興も重要なのですが、津波のリスクがあるはずなのに、住民の危機感が足りないと思います。結局津波の時どこに逃げるべきなのか迷っています。
- 一人ひとりが行政に頼らず、自立して低限の生活が出来る備えをしないと駄目だと思う。
- 半世紀程度は先を見据えた合理性のある復興を計画してほしい。
- 日ごろより、多様な市民の意見を集約することが重要だと思う。
- 重心や障害者…高齢者が住みやすい環境作りをお願いいたします。
- 災害からの生活の復興と経済的復興の両立が大切だと思います。
- 復興方針は大事だが、現状を良くすることに注力すべき。復興方針は良くなった現状を早急に復帰することが第一方針だ。
- 汚い場所（県庁前、お城の西側、和歌浦等）これを機会に再開発をおこない美しい町和歌山を実現してほしい。
- 災害でなくても先の水道橋崩落でも分かるように当市はインフラに関して無能であることをさらけ出している。限られた予算をインフラに集中投資すべき。

- 地域のため池に対して、ため池特措法からなる補助金の対象としてほしい。
- 私道が多く、空き家も多く、地主、家主の承諾なしで 復興できる法整備を早急にしてはどうか。
- 復興はかなりの時間がかかる（東北の震災をみても）。よって行政は復興と避難住民の安心（仮設住宅や避難所など）を平行して進めてほしい。
- 市の放送で情報を流せる事が出来れば、不安は軽減されるかも。
- 災害後優先されるべきは、1、生命の安全と基本的な生活必需品の提供 2、避難所の設置、食料、水、医療などの基本的な生活必需品の供給。3、医療スタッフの派遣や必要な医療機器の供給。
- 災害時の物資の提供は、早くしてほしいです。
- 大規模災害はひどいことだと思うが、街が再開発されて利便性が上がるのは良いことだと思う。
- 力も何も無い隅々の住民に早い助けを強く望みます。
- 県・市とも復興に全力を挙げるとともに、ライフラインの早期復旧を計ってもらいたい。私は、防災士の資格を持っているが、地域の自治会に防災講習を開くよう申し入れをしたが取り上げてもらえない。
- 和歌山県から出た事がない為他府県のことにはわかりませんが、和歌山は比較的住みよいと思っています。ただ孫がおりますがTVで見ると小さい子供を雨の日でも遊ばせる場所がすくないです。もし、災害後の復興をするならそれも加えてほしいです。又和歌山ならあれが充実していると他府県から言われるように特色を持った県にしてほしい。ぶらくり丁がアーケードの中で病院、町医者のレストランになるとかなどです。
- 和歌山人材で、防災士を取得させて頂きました。何かお役にたてれば良いなと思っております。
- 普段から、大規模災害があった時の為に復興活動に必要な物を、シミュレーションしておく必要があると思います。
- もし南海トラフ地震がおこって和歌山が大きな被害になっても、国などいろいろな協力を得て早く復興してほしいと思います。
- ライフラインは、当然の事として大阪からの支援ルートとしての道も整備が必要。一月の大雪の際は泉南から市内まで13時間もかかった。
- 山も海も近いので難しいですが災害に強い町にして欲しいです。
- 避難時ペットと一緒に遠慮せず避難できる場所が欲しい。
- 子供・老人・女性 を優先的に援助する。
- 災害に強いインフラ設備を充実させる。
- 日頃からの訓練は必要かと思えます。シュミレーションをして、自分達の対応策を練っておく事は不可欠かと思えます。地域毎に避難訓練をして、改めて危険区域の再確認するのではないのでしょうか。
- 住民が孤立することのない、横の連携のとれる復興策を希望します。
- ライフラインの復旧最優先で、原状回復+αとなるようにして頂きたい。

この度は、お忙しい中アンケートにご協力いただきありがとうございました。

皆様からいただいた貴重なご意見を参考にさせていただき、本市の防災に関する施策を推進してまいります。

回答結果につきましては、和歌山市事前復興計画を策定する上での指標として活用させていただきます。

今後ともご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。